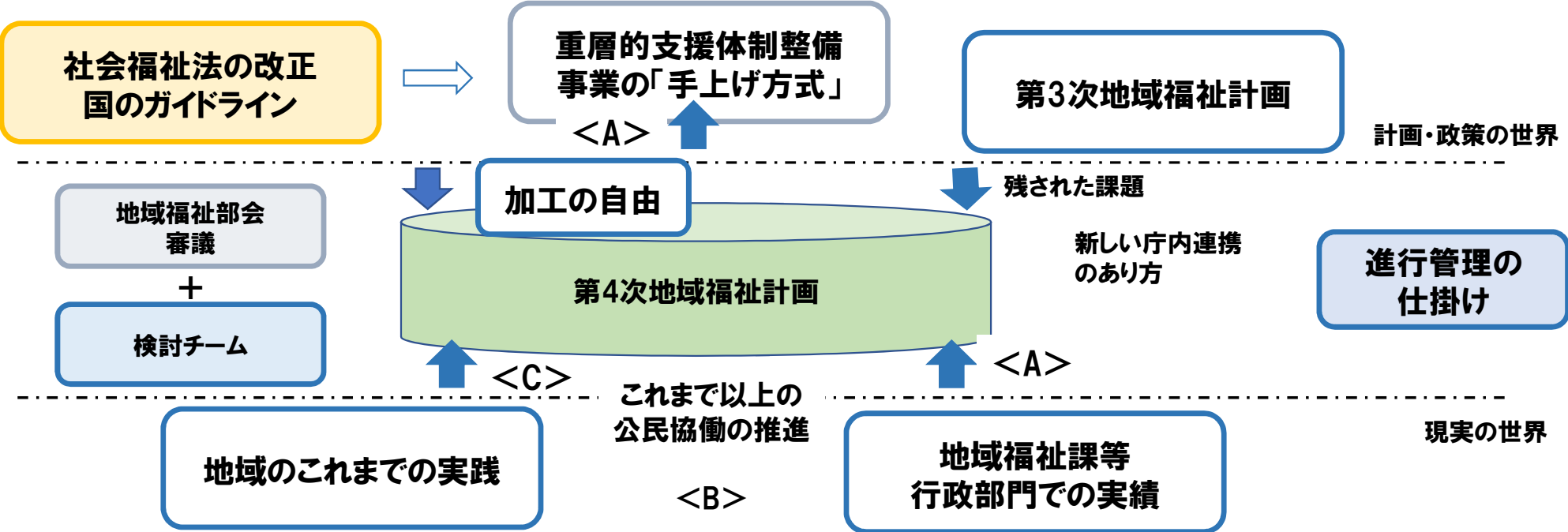


第4次における計画・政策の世界と現実の世界



重層的支援体制整備事業の理解：地域福祉とまちづくりの協働<D>

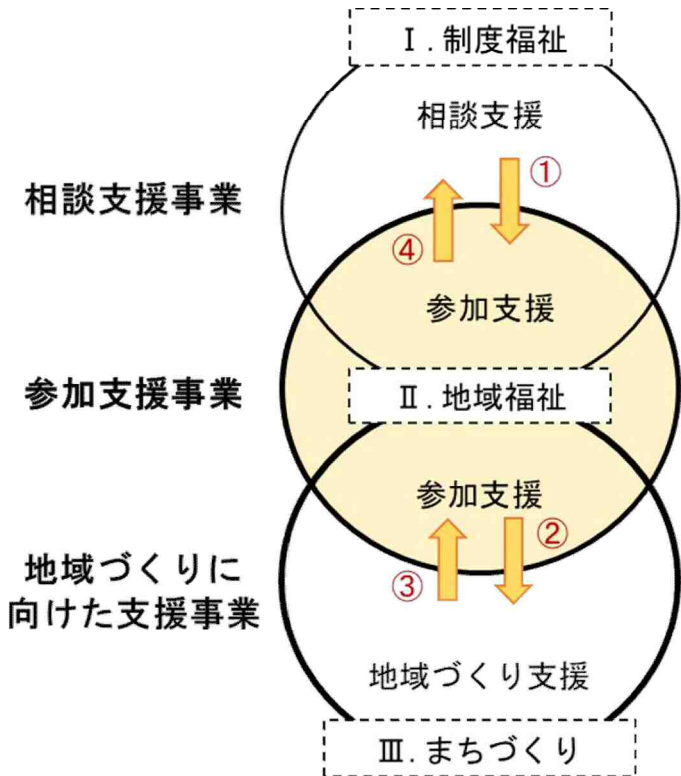
1) 重層的支援体制整備事業の捉え直し：参加支援事業＝地域福祉

(まちづくりとの協働を視野に入れる。制度福祉との協働と異なる役割)

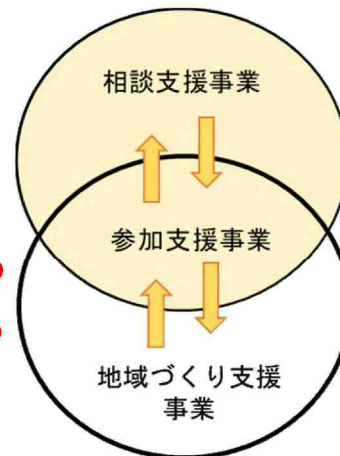
相談支援事業＝制度福祉、地域づくりに向けた支援＝まちづくりと位置づける。

相談支援と参加支援は結びついており、地域づくり支援は参加支援の基盤となる。

相談支援事業を規定しているのが制度福祉であり、参加支援事業を担うのが地域福祉である。そして、地域づくりに向けた支援事業を進めるのがまちづくり、というそれぞれの対応関係を設定することができる。相談支援事業と地域づくりに向けた支援事業とを融合する位置に参加支援事業が位置づくとともに、その推進役を地域福祉が担う。相談支援の重層的な土台構造として、参加支援・地域づくり支援を捉える。ベクトル①～④の形成のなかで、3つの事業の一体化は実現できる。



□参加支援事業の機能を切り分ける



2) 現行の政策枠組み (右図)

「包括的相談支援+アウトリーチ+参加支援」が一体化される傾向。地域づくりに向けた支援事業の拡がりへの対応が弱く、参加支援事業が地域づくり支援と結びつく条件（地域福祉・地域づくりの強化）が乏しい。

図 重層的支援体制整備事業の一体化の構造